

シンガポール

ライオンハート(勇猛果敢)作戦

背景

1990年以降、シンガポール市民防衛庁(SCDF)は、大規模な天災または人災による被害を受けたアジア太平洋地域の国々を支援するため、交代制の海外派遣救助隊を配備している。ライオンハート作戦と名付けられた任務のもと、この救助隊は24時間常に待機して、連絡を受けてから2時間で被災国に出発できるような準備態勢を取っている。40名以上の隊員からなるこの救助隊には、2週間分の食料、後方支援物資および器材が装備されている。隊員の訓練と装備は、国際捜索救助諮問グループ(INSARAG)の基準に沿った災害対応ガイドラインに基づいて行われている。

海外における主な任務実績

これまでのところ、以下の8つのライオンハート作戦任務が実施された。

- a. フィリピン、バグイオ(Baguio)市での地震 - 1990年7月
- b. マレーシア、クアラルンプールでのハイランドタワー倒壊 -1993年12月;
- c. 台湾台中市での921地震-1999年9月
- d. インドネシア、アチェ州でのアジア津波災害 -2004年12月
- e. タイ、プーケット島でのアジア津波災害- 2004年12月
- f. インドネシア、グヌン・シトリ(Gunung Sitoli)でのニアス島地震- 2005年3月
- g. インドネシア、ロカン・ヒリル(Rokan Hilir)でのスマトラ森林火災-2005年8月
- h. パキスタン、ムザファラバード(Muzaffarabad)での南アジア地震-2005年10月

過去2年の間に、ライオンハート作戦の救助隊は5つの災害時に派遣されて成果を上げている。その詳細は以下の通りである。

a. インドネシア、アチェ州におけるアジア津波災害

合計50名のSCDFの救助隊員が派遣され、2004年12月31日から2005年1月11日までの12日間にわたってバンダ・アチェで行われた捜索救助活動の支援に当たり、全部で93名の遺体の収容に助力した。また、シンガポール軍医療チームとの協力により、約2,000名を収容していたセカタ(SECATA)避難所の避難民救済センター(the Refugee Relief Centre)での活動も実施した。救助隊はけが人や病人の手当てをしたり、医薬品の配付、下水設備の建設、心に傷を負った避難民に対する非常時行動支援、および、インドネシア語通訳などの支援も行った。

b. タイ、プーケット島でのアジア津波災害

23名の隊員からなる救助隊が2004年12月31日から2005年1月11日の12日間にわたってホテルやリゾート施設が集中するカオ・ラック (Khao Lak) 地区に派遣され、捜索救助活動を実施した。カオ・ラック地区の被害は、海岸沿いに10km、内陸に300mの範囲に広がっていた。津波により建物が破壊されて木がなぎ倒されており、多くの遺体のがれきや水の下に埋もれていた。2005年1月1日、57名の救助隊員の追加派遣によって救助隊の増強が行われた。捜索活動は、ピピ島のチャーリービーチリゾートでも行われた。カオ・ラック地区で行われた捜索救助活動では、シンガポール空軍のシュペルプーマと言う大型ヘリコプターを使っての空からの捜索を空軍と協力して行い、また、タイ海軍と共同での海上捜索活動も実施された。SCDFの救助隊は全部で14名の遺体を収容した。

c. インドネシア、グヌン・シトリでのニアス島地震災害

大地震発生後にニアス島での捜索救助活動を支援するため、2005年3月29日にSCDFは40名の救助隊員を派遣した。救助隊は2005年3月30日から4月4日まで捜索活動を行い、被災したグヌン・シトリの町で2名を救助し、13名の遺体を収容した。救助隊がニアス島を離れる前に、SCDFは同地域への救援物資の提供も行った。がれき除去に必要な機器や専門知識を求めるインドネシア政府の依頼を受けて、SCDFは持ち運び式の砕岩機15セット(60,000シンガポールドル相当)を提供した。また、インドネシア軍の担当兵士にこの砕岩機の使用方法についての訓練を行うために、SCDFは2名の災害時救援チーム専門家を2005年4月8日にニアス島に派遣した。

d. インドネシア、ロカン・ヒリルでのスマトラ森林火災

2005年8月18日、スマトラ島で広がっていた森林火災の消火活動を支援するために、54名からなるSCDFの救助隊がスマトラ島へ派遣された。救助隊はインドネシア環境省の国土森林部門(Land and Forest Division)および現地のポルフット(Polhut)(森林警備隊/ポリシ・ケフタナン(Polisi Kehutanan))と密接に連携を取り、派遣地域において活動を行った。4日間(2005年8月19日~22日)の間、救助隊は自然林野3カ所およびヤシの木農園3カ所の計6カ所で活動を行った。火が内部でくすぶる泥炭火災の消火のために消火隊が主に用いた機材は、持ち運び可能なポンプと放水砲であった。

e. パキスタン、ムザファラバードでの南アジア地震災害

2005年10月10日、現地機関の搜索救助活動を支援するため、SCDFは44名からなる海外救助隊を派遣した。12日間の派遣期間中、救助隊はパキスタン軍および国連現地活動調整センター(OSOCC)の傘下に入って活動を行い、ムザファラバードに置かれた中央病院での医療支援の提供およびヘリコプターによる周辺地域からの地震被害者の搬送において支援を行った。

ムザファラバードでの活動は、救援活動の重点が短期的な救助活動から世界保健機構(WHO)や世界食糧計画(WFP)などの人道活動組織による長期的な復興活動へと移った2005年10月18日に終了した。SCDFの救助隊員は、派遣期間中に合計500名を超える被災者の手当てをした。

結論

SCDFは、シンガポール国外で大きな災害が起きた場合にいつでも対応できるための配備をし、被災地域で援助を必要とする国々で搜索救助活動の支援を行えるように今後も積極的な役割を担っていく。

連絡先

質問や不明点に関してはアルバート・ソー少佐(MAJ Albert Seow、活動計画部副部長(Assistant Director Operations Planning)) (SEOW_kok_piat@scdf.gov.sg)またはアルビン・ロー少佐(MAJ Alvin Low、プロジェクト担当官(Senior Officer Projects)) (ALVIN_low@scdf.gov.sg)まで。



ライオンハート作戦救助隊による救助活動